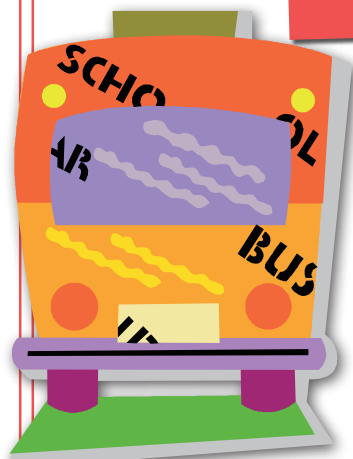


中学生が学会にやってきた



兼宗 進（一橋大学）

久野 靖（筑波大学）

2007年5月22日に、愛知県の中学生在がコンピュータの調査のために本会を訪問してくれました。その様子を報告します。

来てくれたのは、愛知県安城市立明祥中学校3年生の生徒さん4人です。この日は東京に修学旅行で来ており、事前に担任の先生を通して学会に見学の依頼がありました。

当日は、初等中等情報教育委員会の兼宗と久野が、湖東事務局長とともに対応しました。

あらかじめ聞いていた質問事項は次の4点です。

「(1) どのような機能がコンピュータに加わっていくか」「(2) どのようなものにコンピュータの要素が加わっていくか」「(3) コンピュータによって世界がどのように変わっていく

か」「(4) これからコンピュータの機能はどう発展し、世界にどう影響を与えるか」

最初に学会に来てくれた理由を尋ねたところ、「コンピュータについて、日本でいちばん詳しいと思ったから」という答えが返ってきました。このように社会に認知されていることは、学会として光栄なことだと思います。

続いて、学会のWebページで公開されている「コンピュータ博物館」を見ながら、コンピュータの歴史を説明しました。何人かはENIACを知っていましたので、予習をしてきてくれたようです。

部屋いっぱい大型コンピュータから机に置けるようになったミニコンピュータまでを見たところで、画面に出ているコンピュータの記憶容量が4KBであることを説明し、手元にあった携帯音楽プレイヤー（4GBのiPod）との違いを計算してもらったところ、わずか30年で100万倍になっていることが分かり、技術の進歩を身近に感じてくれたようでした。

コンピュータの未来については、「コンピュータ自身の進歩は今後も続いていくが、それをどのように利用するかというアイデアが大切」であることを説明しました。

身に着けるものとしては、メガネ型のディスプレイや腕時計に内蔵されたコンピュータがすでに実用化されていることを伝え、そのほかに便利なことを考えてもらいました。「傘に入れたら便利かもしれない」といった柔軟なアイデアに加え、「靴に入れた場合は人間とどうやってコミュニケーションをとればよいだろう」といった、インタフェースの議論で話がはずみました。





左から湖東事務局長，兼宗進，久野靖



安城市立明祥中学校の生徒さんと学会事務局の前で

最後に、コンピュータはハードウェアだけでなくソフトウェアも進歩しているという話をしました。身近な例として、日本語と英語の言語（ドリトルと Java）のプログラムを見せて、日ごろ遊んでいるゲームなどはプログラムで書かれていることを説明したところ、「ゲームの裏側が分かってよかった」という感想をもらいました。

家庭や学校にもさまざまな形で CPU が内蔵された電化製品が入ってきていますので、中でコンピュータのプログラムが動いているというモデルは、中学生のうちから、ぜひ知っておいてもらいたいと感じました。

生徒さんたちからは、後日先生からのお礼状とともに、感想を送ってもらいました。その一部をご紹介します。普段知ることのできないコンピュータの裏側を知ること、興味を持ってもらえたようです。

前回の訪問で僕はとてもたくさんのことを学ぶことができました。コンピュータの過去からコンピュータの未来まで、とても幅広い質問にもていねいに答えていただき本当に助かりました。

なかでも、コンピュータが今後どのようなものに加わっていくか、という話題が盛り上がったのをよく覚えています。靴にコンピュータの力が加わったら、メガネだったら、かさだったら等とてもおもしろかったです。

お話を聞かせていただいたおかげで、コンピュータの作られた目的、コンピュータの歴史、コンピュータは今後どうなるのか、世界最高のコンピュータ「スーパーコンピュータ」の性能など、日常生活の中では知ることのできない専門的なことまで知ることができ、とても感激しています。コンピュータへの興味がとても深まりました。

今回は、コンピュータに興味を持ってくれている中学生たちの学会訪問を紹介しました。

対応してみて感じたのは、この年代への学会としての取り組みの重要性です。現在の中学生は、情報科学としてのコンピュータに触れる機会がほとんどありません。これから自分の興味や適性によって進路を決めていくときに、その選択肢に「情報」や「コンピュータ」が入っていることはとても大切なことかもしれないと感じました。

コンピュータは単に「使う」だけのものではなく、「自分たちが新しい世界を拓いていけるおもしろい分野」であることを、少しでも感じてもらえたら成功かな、と思っています。

帰りがけに、学会の入口で記念撮影をしました。生徒さんたちには、学会のロゴ入り USB メモリや、写真や絵の多い号の会誌を数冊持ち帰ってもらいました。会誌は「参考になる」と、とても好評だったことをお伝えしておきます。

（平成 19 年 6 月 15 日受付）